

「理想を語るのではなく、
『構造』として落とし込み
現実の社会に実装していく。
その先で未来を変えたい」

合同会社 ONS
代表社員

小田 耕平

Anchor's PERSON
of this month

小田代表の経営の核心は単なる利益追求ではなく、「現場と人を守るための構造の実装」にある。

10代からの壮絶な原体験が「誰も見捨てない」「責任の配置を変える」という信念の土台となり、整備士として歩む中で業界の構造的転換や規制強化という困難に直面しながらも、従来の請負形態から人材派遣業への転換という革新的な手法を用いて、仲間の雇用を守り抜いた。

業界を取り巻く環境が大きく変わりつつある中でも、その判断基準は一貫して「構造」にある。「頑張る人が正当に評価され、責任が現場に押し付けられず、制度として守られる仕組みこそが“平和”」――。

確固たる想いと培った技術力・信頼を軸に、現場の構造から未来を変えていく。代表の姿勢は、現場起点で経営を考える新しい経営者像の一つと言えるだろう。

社員や派遣スタッフとの交流を深め、本音で語り合うキャンプやアウトドア活動を定期的に行なう



地域の人々や仕事の関係者が集い、『ONS』の拠点の一つで餅つき大会を開催



事業内容

- ・人材派遣
(許可番号：派 40-302018)
- ・人材育成強化
- ・経営統合支援
- ・物流・整備・回送
- ・現場 DX・AI 活用支援



ONS
Trail Co.

人と企業と未来をつなぐ
CONNECTING THE FUTURE
合同会社 ONS
URL : <https://ons-trail.co.jp/>

【本社】福岡県福岡市東区香住ヶ丘4丁目
【人材派遣事業所】福岡県福岡市東区和白4-10-42 J・プレミアムリゾート202
TEL : 092-235-5051 | 営業時間 : 9:00-18:00 | 定休日 : 土・日・祝日

人材派遣に関するご相談や業務内容についてご質問がございましたら、
企業様・求職者様ともに、お気軽にお問い合わせください。

info@ons-trail.co.jp



【HP】



【LINE】

Anchor EXECUTIVE INTERVIEW

president

代表社員

小田 耕平

現場と人を守るための構造を実装する—— 技術と責任が融合した経営哲学に迫る

『ONS』は物流インフラの最前線で大型車両の稼働を支える精鋭の整備士集団だ。同社を牽引する小田代表は業界の構造的転換という荒波を乗り越え、現場と働く人を守るために人材派遣業という形で同社を設立した。本日は、タレントのダンカン氏が同社を訪問。「現場の構造から未来を変えていきたい」と語る代表の熱き想いに迫った。

——小田代表のこれまでの歩みから。

宮城県仙台市の出身です。中学時代にいじめを経験しまして、その寂しさから「友達が欲しい」という一心で不良グループと関わるようになりました。環境は加速度的に悪化し、このままでは取り返しのつかないことになるかと危惧した両親が、縁もゆかりもない福岡県朝倉市にある「金光教」の施設へ私を預ける決断をしたんです。

——16歳の多感な時期に、修行生活へ身を投じるのは相当な葛藤があったのではないですか。

そうですね。当初は「なぜ自分だけが

こんな目に」と苦しみました。行く場所がなかったのも事実です。朝5時に起きて掃除と参拝を行い、日中は庭の剪定などの雑用に明け暮れる毎日。食事も先生方の残り物を頂くような徹底した修行でした。しかし、その「奪われた自由」の中で、私は初めて自立への渴望を抱いたんです。どうすればここを出て一人で生きていけるか。その答えが、自分の好きだったバイクや車の「技術」を身につけることでした。孤独の中で、当たり前前の生活がいかに有り難いか、そして人の温かさがどれほど救いになるかを骨身に染みて学びました。それが私の原点です。

——修行を終えられてからはどのような道を歩んでこられたのでしょうか。

必死に勉強して高卒認定試験に合格し、専門学校へ進学しました。そして自動車整備士の資格を取得し、『佐川急便』の営業車両の整備などを手掛ける『SGモーターズ』に入社。整備士として技術を磨き、その後、国内大手トラックメーカーの下請けとして現場に入らせていただくことになりました。

——現場叩き上げとして、その腕を買われたわけですね。

そこで直面したのは優秀な人間ほど疲弊して辞めていくという過酷な現実でし

た。私は整備士として「なぜ機械が壊れたのか」という根本原因を突き止めることを大切にしてきましたが、それは組織にも当てはまると気づいたんです。「なぜ人は辞めるのか」という問いを立てた時、原因は個人ではなく、現場に責任を押し付ける社会の構造にあるのではないかと考えたんです。

——その構造的な矛盾に対し、どのように立ち向かおうとされたのでしょうか。

私は20代に入ってから、実兄の勧めもあり、整備士の仕事と並行して投資の極意や、「金融リテラシーで現実を知り、地政学と歴史から資本主義の構造を読み解き、心理学で人を理解し、哲学で生き方を定める」ことを学びました。そして、尊敬する孫正義氏やウォーレン・バフェット氏やイーロン・マスク氏の著書から学んだのは、「現状を打破するには自らが責任の配置を変える側に立たねばならない」ということ。現場の悩みを聞き、上司と部下の間を取り持つ中で、技術以上に「信頼」という資産を築くことの重要性を学びました。現場で働く一人ひとりと向き合い、彼らが尊重される仕組みを作りたいという思いが、後の独立へと繋がっていきます。

——では独立の経緯について、詳しく伺っ

company data

合同会社 ONS

【本社】福岡県福岡市東区香住ヶ丘4丁目

【人材派遣事業所】福岡県福岡市東区和白4-10-4

J・プレミアムリゾート202

URL : <https://ons-trail.co.jp>

メールアドレス : info@ons-trail.co.jp



小田代表が16歳で出会った親友、平勝彦氏と共に

>>>The origin of philosophy

▼小田代表の経営哲学の深層には、16歳の夏に刻まれた「親友の自死」という癒えることのない傷がある。亡くなる直前、彼女からかかってきた電話。「元気にしてる？ 何してる？ また遊ぼうね」。その何気ないやり取りが最後の会話になるとは思いもよらず、彼女のSOSに気づけなかった自分を、代表は今も責め続けているという。

▼この痛切な悔恨こそが、代表の人生観を大きく変えた。「人を見捨てないこと」「誰かの変化に気づこうとすること」「自分にできる責任を果たすこと」——それを言葉でなく、行動で示し続

ていきます。

実は、一緒に働いていた仲間が体調を崩し、精神的に追い詰められて自死を考えるほど深刻な状況になったことがありました。その時、私は「自分はリーダーとしての責任を果たせていたのか」と猛烈な後悔に襲われたんです。彼を守るための受け皿を作らねばならない。そう決意して法人化しましたが、そんな矢先、請負い先から予期せぬ制度変更に関する通達が出たんです。これにより現場の仲間が一斉に仕事を失う、まさに崖っぷちの状態に陥りました。メーカー側としても、急激な制度変更や法規制への対応に追われ、現場と雇用の両立に苦心されていた時期だったと思います。私自身も、そのご苦勞を間近で感じていました。その中で、仲間を守るために派遣という形で新たな役割を担う道を選び、結果として現在まで続く協力関係につながっていることを、ありがたく感じています。

——現場の混乱は相当なものだったでしょう。その中で代表は仲間の方々を守るための一手を打たれた、と。

膨大な事務手続きや資金繰りの苦勞を承知で、自ら派遣会社を設立し、以前と同等の対価と稼働率を維持する構造をメーカーに提案することにしたんです。審査は非常に厳しく、心臓が止まるような思いを何度もしましたが、仲間を見捨てる恐怖に比べれば大したことはありませんでした。現在はONS精鋭20名のスタッフとメーカー関係者と共に、複数拠点で年間2万台規模の車両稼働、物流インフラを支えています。

——『ONS』という社名には代表のどのような想いが込められているのでしょうか。

「One New Start」——「すべてを一つに、新しいスタートを」という意味があります。これには、人（仲間・家族・現場）、技術（整備・AI・システム）、想い（責任・使命・信頼）、未来（次世代・社会構造）を分断せず、統合して再出発するという想いを込めました。

——これからますます激動の時代を迎えるかと思いますが、未来を見据えた代表の言わば「覚悟」なのですね。代表はこれから『ONS』さんをどのような方向へ導こうと考えておられますか。

EVシフトやAIの台頭により、従来の整備の仕事が減るリスクは常に計算しています。しかし、時代がどう変わろうと、人間が介在する「責任の構造」の価値は変わりません。私は今、あえて大きな工場を持つことよりも、場所を選ばない技術力と信頼、つまり「ポータブルな収益力」を重視しています。利益を適切に分散し、仲間たちがどんな変化にも路頭に迷わないための守りの基盤を固めることが、経営者としての私の責務です。

また、私は人が人として尊重され、恐れずに生きられる世界を、現実の社会の中で実現したいと考えています。

——お話を伺っていると、代表は単に事業の成長ではなく、社会の在り方そのものを見据えておられるように感じます。代表が思い描く理想の社会とは、どのような姿でしょうか。

私にとって平和とは「構造」そのものです。頑張る人が正當に評価され、責任

けてきたのだ。多くの経営者が「責任」を法的義務や損益計算の枠内で語る中、代表にとってのそれは、目の前にいる人間の微細な変化に気づき、その人生を丸ごと守り抜くという「命への誠実さ」と言っても過言ではないだろう。法人化のきっかけとなった同僚の危機も、彼には自らの責任の欠如として映った。『ONS』という組織は、単なるビジネスの手段ではなく、誰一人取り残さないための最後の砦として立ち上げられた“構造”なのである。これからも現場で、仕事で、仲間と向き合いながら自身の責任を果たしていく。

が現場に押し付けられず、制度として守られる仕組み。それが整って初めて、人は争わずに生きていけるのではないのでしょうか。だからこそ私は平和を語るだけでなく、それを現実の社会に実装していく人間でありたい。声の大きさではなく、現場の構造から未来を変えていく——それが私の使命です。今、私には二人の息子がいますが、彼らが大人になった時、シンギュラリティに支配されるのではなく、人間性を発揮して共存できる側であってほしい。そのためにも、「親父は現場で、仕事で、仲間を守り抜いたんだ」という背中を見せ続けたいです。

(2026年1月取材)

after the interview



「整備業界の話でありながら、社会の在り方そのものを問う対談だったと感じました。売上が激減するという危機の中で、感情ではなく制度と向き合い、構造を再設計して仲間を守った。小田代表の姿勢は、単なる経営判断を超えていると思います。そして理想を語るにあたって、常にそれを実行するための『数字、税制、法的スキーム』という具体的な構造にまで落とし込んで話す。代表の姿は、経営者の一つの理想像を示していると感じました。未来を見据えた代表のますますのご活躍を応援しています！」　ダンカン・談